

組織現勢 (5月1日現在)

組合員数	25,321世帯
出資口数	96,382口
4月の新規加入	10世帯
4月の増資口数	56口

No. 340 再生紙を使用しています。

城南の保健

発行所
城南保健生活協同組合
本部事務局 大田区大森東4-6-15-101
TEL (3762) 0266
振込銀行 さわやか信用金庫大森支店
口座(普) 0469459
発行 「城南の保健」編集委員会
毎月1回発行・定価1部 30円

今回のとりくみは、呼びかけ
人によりラッキートラベル社が
企画しました。
現地では、いくつかのグルー

城南三法人から9人参加

バス2台で現地調査と
ボランティア活動

(4月28～30日)

支援の輪が広がっています
陸前高田を勝手に応援する会

網の修復作業を行いました(陸前高田市にて)

引き続き現地への支援、義援金のとりくみを行ってまいります
組合員のみなさまのご協力をお願いいたします
(記事は5月13日現在)

復興にむけ、心・力・想いを
集めて、大きな輪に！

プに分かれて、「聞き取り訪問行動」「青瓦市場」「網の修復作業」を実施。岩手湯本温泉ホテルで避難者と交流。沢内村の見学も行いました。

支援者の想い

陸前高田は、本当に壊滅的な被害でした。参加された方々の中からは、「短期間の支援だったが、もっと他にもできたことがあったのではないか?」「引き続き2回目、3回目に参加したい」「少しの時間だけだったが、このようなとりくみを多くの人が続けていくことが必要。胸をはって帰りたい」となどの感想が印象的でした。

気持ちを持ち
続けること

続けること

「支援のあり方」はとても難しいと思います。1週間にわたる支援から帰ってきた看護師さんも「もっといろいろなことがあった」との想いを語っていました。現地の方々は、今必要なことを支援者にしてもらうことを準備するのも大変です。今後も支援の輪が広がり、被災地入りする方も多いと思いますが、「些細なことでも支援につながる」

東日本大震災 災害支援レポート

大田病院回復期リハビリテーション科 医師 細田 悟

医局からは、秋山医師、渡辺医師、山本医師、高岡医師、野田医師(研修先から)、前田美香医師(入職前)に次いで、私は7人目の派遣でした。期間は5月5日～8日、連休の最後の方であり、現地での医療支援の質と量が大きく変わろうとしている時期でした。

私が入った宮城県坂総合病院は塩釜市と多賀城市で医療支援を行っています。地域のライフライン(水道と電気)はすでに回復しており、坂総合病院を含め、多くの医療機関は通常業務を行っていました。

医師の任務は、内科等の外来、救急外来、日直、当直業務、そして避難所への訪問医療でした。多賀城市最大の避難所である文化センターでは、ピーク時1,500人の被災者が避難していましたが、4月下旬には500人まで減り、私が訪問した5月7日には300人にまで減っていました。しかし、油断できないのは、残っている方はいわゆる弱者が多いということです。単身生活者、要介護者、高齢者、糖尿病など慢性疾患を持った人が目立ちました。急性肺炎が疑われた60代の女性が受診し、すぐに救急車で市立病院へ搬送しました。

行政の計画では、6月中には仮設住宅にほぼ全員入居できる予定とのことでした。しかし、津波の被害にあった場所に建てられていて、不安で眠れない、収入や現金がまったくないので、食事をどうするかなど不安がありました。

全国各地から来ている医療支援は5月の連休を境にほぼ終了するようでした。他の医療機関が撤退してからも全日本民医連の支援は継続することになると思います。仮設住宅訪問活動など形が変わっても必要な人がいる限り…。

坂総合病院でもピーク時は130人を超えていた全国からの支援者は、5月5日＝30人、5月8日＝十数人と減少しています。安心してみんなが笑顔で過ごせる日が来るまで全日本民医連の支援は続きます。



支援の仲間と一緒に、右端が細田医師



聞き取り訪問チーム

という気持ちと、「復興のためにできることをする」という気持ちを持ち続けることが大切だと感じて帰ってきました。

(本部・横山)

大田歯科チームは

4月5日～8日松島に吉田心一歯科医師・滝口志登美歯科衛生士・松田康作歯科技工士・事務長大川の4人で支援に行つて

きました。石巻市の8件の避難所を2日にわたり回りました。歯科医療支援で歯科製作などを行ってきました。お話を聞くとき、後ろまで津波が迫ってくる中、車で高台に行けた方、車で逃げたが信号が停電で大渋滞のため車を捨てて走って逃げたなど生々しいお話が聞けました。

みなさん明るくふるまっていました。地震と津波で広範な地域が被災していることに驚くばかりです。個々の支援の力は小さいけれど、少しでも報われる人がいるということを共に行動したものとかち合いました。帰路の前日震度6の地震も経験しました。まだまだ支援が必要だと思いますが、綿密な情報収集が必要だと感じながら4人無事に帰ってきました。

(事務長・大川)

支援物資・義援金の状況



現在は支援物資は集めていません
義援金は5月13日現在

城南保健生活協同組合員・職員関係 532,538円
大森中診療所窓口関係(生協担当分) 333,631円

*5月1日(日)代々木メーデー後、城南三法人の仲間70人が集まり蒲田駅西口で義援金活動を行いました。

腹八分

昔あるところに物忘れのひどい男がいました。あんまり物忘れがひどいので、この男の妻が物忘れを治す薬をもらいに行

かせることを思いつく。ある日の朝、男は妻に言われて馬に乗り薬をもらいに家を出る。途中まで来て男は便意を催して、馬を降り適当な場所まで用を足す。用心のために携えてきた矢を邪魔になるからと傍らに差しておいた。さて用を足して立ち上がった、自分の近くに矢が射っている。男は思いました。おれは運がいい、この矢に当たっていたら命がなかった。そして足元に糞が垂れてあるのを発見。男はこの誰の仕業か知らないけど、踏んづけなくてよかったと自分の幸運を喜びました。道に戻ったら馬がいます。うまい具合にこんなところに馬が。男は度重なる幸運に満足して馬に乗り、馬に導かれて夕暮れの家に帰り着く。家の前で妻が迎えます。男は言いました。お前さん、この誰の仕業か忘れた。これは社会的な現象になっています。東日本大震災・福島原発事故という未曾有の事態に遭遇しても、ついこのうまで原発安全神話を発信してきた電力会社、政府、マスコミが神話の語り部であったことをすっかり忘れていました。城南のある区では、原子力発電よりも自然エネルギーを主張する政党を除いた全ての議員が、毎年東電に汽車賃と弁当代を出してもらって、柏崎刈羽原発を視察していました。要するに安全神話をたたき込まれて行く視察でした。そのことを憶えている議員はひとりもいません。